

構造計算適合性判定の指摘事項抜粋

平成20年12月16日作成

平成22年 9月21日改正

株式会社 建築住宅センター

一 般	<ul style="list-style-type: none">・ 構造計算書で建物の特徴及び設計方針内容が不足・ 計算書と図面で使用材料及び使用部材の不整合・ チェックリストが無い・ ワーニングメッセージにコメントが無い・ H形鋼が旧JIS規格のコーナーRで計算されている・ 角形鋼管のコーナーRが鋼材種類に合ったRで計算されていない・ 計算書と図面で壁開口が不整合・ エキスパンションジョイントの間隔設定の考え方が不明
荷 重	<ul style="list-style-type: none">・ 固定荷重・積載荷重の算定根拠が不明・ 設備荷重及び特殊荷重の根拠となる計算書や資料が添付されていない・ 荷重分布図の記載がない・ 追加荷重を拾っているが入力されていない・ 積雪荷重が積載荷重で入力されていて、建築基準法の組合せで設計されていない・ 2 mを越える片持梁の鉛直震度が考慮されていない
準 備 ・ 応 力 計 算	<ul style="list-style-type: none">・ 剛床仮定の成立が不可能な架構モデルあり・ 剛域長さの根拠が不明・ 片持小梁の曲げが処理されていない・ 建物高さが確認申請上の地盤面からの高さとなっていない・ 層間変形角及び剛性率算定用の階高がおかしい・ 部材成を無視した応力計算をされている・ 大きな梁レベル差があるのに応力の補正を行っていない・ 応力計算に特異値が生じた場合の補足計算・原因究明がされていない・ 吹抜けに接する梁に床による剛度増大率が考慮されている・ 基礎の浮上りが生じているのに処理されていない・ 露出柱脚の回転剛性が考慮されていない・ フカシコンクリートによる剛性評価の考えが不明・ 腰壁・パラペットによる剛性評価の考えが不明・ 剛性率・偏心率の計算において雑壁等の非構造部材を考慮した場合としない場合の安全側となる方で判断されていない

断面算定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算書と図面で符号の振り方が違う ・ 屋根葺き材の検討がされていない ・ 人通口の検討・図面の記載が無い ・ 屋外階段・EV等の突出部が局部震度に対して本体に応力伝達できるか確認できない ・ 鉛直ブレースの接合部許容耐力が不明 ・ 鉛直ブレースの偏心による検討がされていない ・ 水平ブレースの計算内容の誤り ・ H形鋼大梁端部にスカラップがある場合に断面欠損を考慮しないで断面算定している ・ 角形鋼管柱とH形鋼大梁の接合部の検討がないまま、梁のウェブ耐力を曲げ耐力に有効としている ・ 軸力が生じる梁の軸力が考慮されていない、また、継手の検討がない ・ 柱の断面算定で座屈長さ係数が考慮されていない ・ 2層にわたる柱、2スパンにわたる梁が1つの部材として検討されていない ・ 部材接合部が保有耐力接合であるかの確認ができない ・ 鉄骨大梁継手がSCSS-H97に準拠とあるが計算書・図面が違う ・ 露出型柱脚のコーン状破壊、ベースプレートの板厚の検討がされていない ・ 吹抜部の風圧による鉄骨梁弱軸の検討がない ・ 横補剛数が図面と違う ・ 横補剛材の耐力・剛性が検討されていない ・ 付着の検討がされていない ・ 鉄筋の重心位置が適切に評価されていない ・ 耐震壁の開口補強の検討がされていない ・ 耐力壁の層せん断力負担率50%以上なのに剛接架構の割り増しを行っていない ・ 階段受け壁の検討がない ・ 原則、全ての部材の断面算定を行わなければならないが、合理的な理由も明示されていないにもかかわらず、代表のみ断面算定を行っている。 ・ スパンの大きい梁に取付く間柱の 梁たわみに伴う軸力が考慮されていない
------	--

基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杭による曲げ戻しの考慮がされていない ・ 杭頭接合の検討がされていない ・ 偏心基礎による地中梁の検討がされていない ・ 地盤の液状化に対する考察及び検討がない ・ 液状化が起こると判断して対処されていない ・ 地中梁が取り付けかない方向の上部構造応力が処理されていない ・ 地中梁が取り付けかない方向の基礎偏心・基礎の水平荷重時応力が処理されていない ・ 地盤調査をスウェーデン式サウンディング試験で行い、120kN/m²以上の地盤許容応力度を見ている ・ 柱状地盤改良、ラップルコンクリート等の地震時の検討がない ・ 支持層の層厚、支持層下の土質に対する考慮がない ・ 1階が土間コンクリート等の場合の剛床条件が明示されていない ・ 土間コンクリート等で剛床でない場合の杭の分担せん断力が基礎ごとに検討されていない ・ 地盤許容応力度の計算において基礎に作用する荷重の傾斜角θが考慮されていない
----	--

<p>保有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンチ付梁の仕口部・継手の検討がされていない ・D s 値の決定方法が確認できない ・S T K R材を使用する場合の柱梁耐力比1.5倍が確認できない ・崩壊メカニズムが全体崩壊か局部崩壊メカニズムか判断する資料がない ・基礎に部分的な浮上りが生じているのに考慮されていない ・横補剛N G部材が横座屈した時点で保有水平耐力としていない
<p>図面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイアフラムの材種が不明 ・横補剛が横座屈に有効に効く納まりか不明 ・柱脚とブレースの納まりが不明 ・スリットの仕様が不明 ・梁引張鉄筋の柱への定着が40 d となっていない (ルート1、2)